

平成27年8月7日(金)

老球の細道153

## コーチの影響力の源泉「4つの“い”」

会津バスケットボール協会 室井 富仁

育成年代におけるバスケットボールコーチの影響力は親の次、あるいは親以上にあるかもしれない。コーチとの出会いがその人の人生を変える場合だってある。私がそうだった。

高校時代の恩師・菊地長康先生との出会いは、それまで無目的に怠惰な人生を送っていた私の人生をすっかり変えてしまった。先生に影響を受ける前の私は、バスケットボールに対して真剣に取り組んでいなかったし魅力も感じていなかった。

ところが、ある日先生の目に留まり、認められ毎日の練習で褒め殺しにあっているうちにすっかりその気にさせられてしまった。先生には常に声をかけていただき、家まで訪ねて来てもらい、ありがたい気持ち一杯でバスケットボールに打ち込むことができた。3年生の時の高校生最後の県総体で念願の優勝を達成した時、旅館で先生と一緒に風呂に入り背中を流したことを今でも忘れない。

子は親が思うほど思っていない、部下は上司が思うほど思っていない、プレーヤーもコーチが思っているほど真剣には思っていないというのが世の常であるが、そのプレーヤーをわが師・菊地長康先生のようにその気にさせるコーチになりたいとずっと思ってきた。コーチのどのようなところにプレーヤーは影響を受け、その気になっていくのだろうか。今までのコーチ生活を振り返ると「4つのキーワード」が思い浮かんでくる。

### 1・怖い

怒るコーチが怖いのではない。コーチは権力者ではなくてサポーターであるから。規律や仕事に対して常に厳しい姿勢で臨む。プレーヤーにだけ厳しくするのではなく、自分自身に対しても厳しい姿勢で事にあたる人は怖い。妥協を許さず、自分の信念に従って行動をする人も本当に怖い。そのような本物の怖さを持った大人に子どもたちは憧れる。

### 2・すごい

プレーヤーにとってコーチがプレーヤーとしてスーパースターだったキャリアはコーチングに何ら影響を与えない。それよりもコーチのバスケットボールの技術、戦術に対する豊富な知識とコーチとしてのすごいキャリアには多大なる影響を受ける。コーチはオーラを感じさせ、そこにいてただ存在感を示す。コーチの自慢話にはオラ、オラ、オラ！

### 3・ステキ(語尾が母音で“い”)

もちろん外見がステキなことにはこだわらないが、外見は都市伝説にもあるように「三日見れば飽きる、三日で慣れる」のレベルである。本当にステキだと感じるのは、やはり人間としての内面的魅力である。ミスを認めるコーチの包容力、困難にチャレンジする行動力、自分のことよりもチームことを第一に考えるリーダーシップには誰もがほれこんでしまうだろう。そして自分もそのようなコーチのようになりたいと。

### 4・ありがたい

プレーヤーはコーチの思いやりを理解できた時にコーチの話や知識に耳を傾ける。いつもプレーヤーのことを気にかけて面倒見のよいコーチのもとで、プレーヤーはコーチの喜ぶ顔を見たくてがんばる。悩みを聞いてくれ、進路の相談にも一役買い、時にはごちそうまでしてくれる。そんなコーチの元にプレーヤーはたくさん集まる。